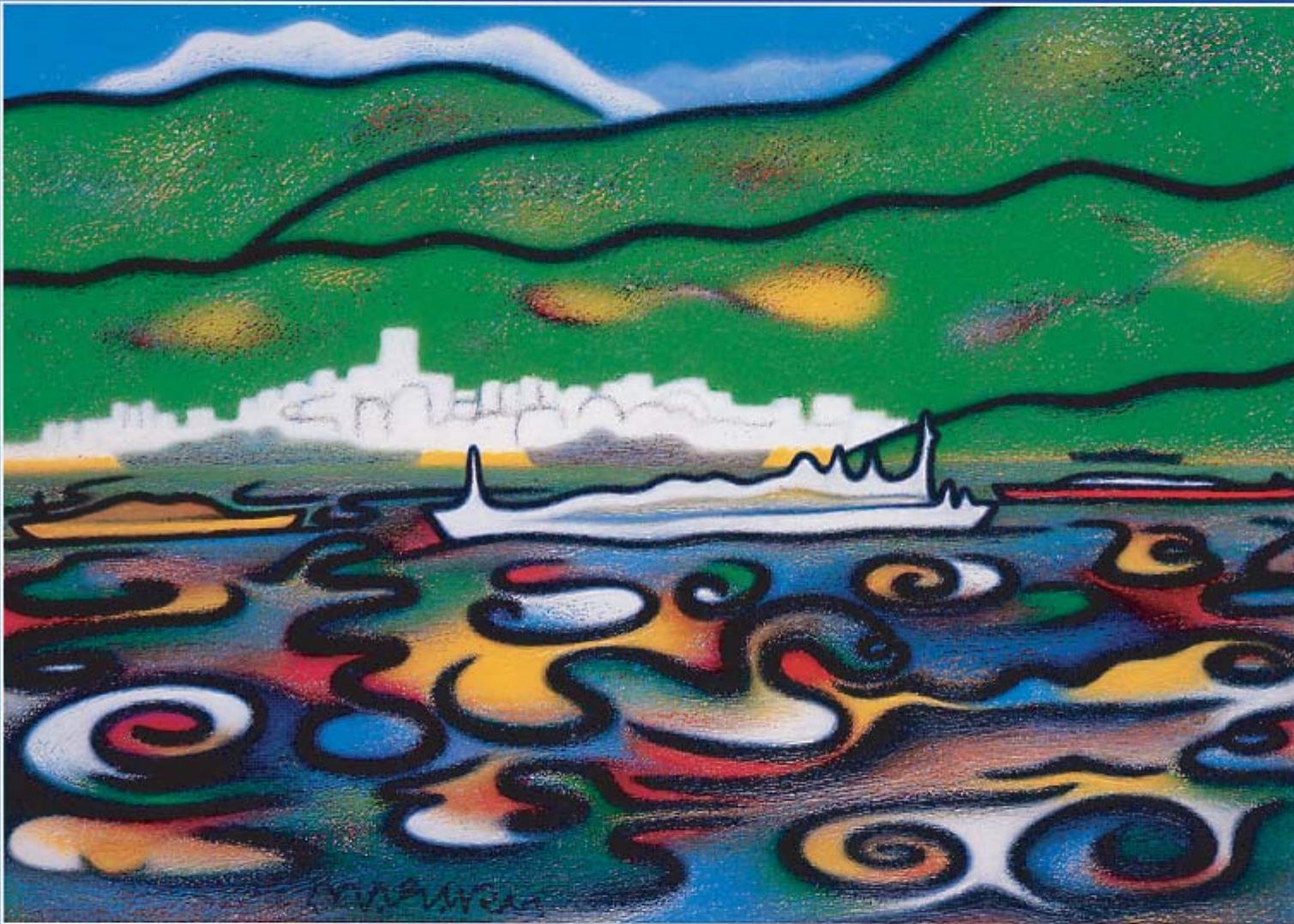


# テキスタイル・レポート

# 今治 いまばり Towel & Towelling

VOL.3  
2FEB.2001



福田勝「IMABARI」

クローズアップ タオル人

今治タオル中興の祖「菅原利鎌先生の生涯」

生活の中のタオル 海外の暮らし③アメリカ篇

平凡だけど すばらしいもの

兼高かおる 世界の旅

萌えるうず潮 福田勝

私とタオル 橋本聖子・佐伯美香

タオルでひとやすみ

タオルのふるさと紀行  
「来島海峡の歴史を訪ねて」

今治および芸予諸島の  
主なイベント・祭りガイド

テキスタイル・レポート今治

Vol.3

発行日 / 2001年2月  
編集発行人 / 集積活性化委員会  
委員長 / 西脇 弘  
監修 / 四国タオル工業組合  
構成 / ケーオーラブ、スミレビング新聞社  
印刷 / セキ株式会社

## 今治および芸予諸島の 主なイベント・祭りガイド

(平成13年4月～平成14年3月)

### ◆能島桜まつり

4月14日(土)・15日(日)(予定) 宮窓町能島  
問い合わせ / 宮窓町産業観光課 TEL0897-86-2500  
桜の名所であり能島村上水軍の本拠地だった能島で水軍太鼓の演奏やお茶会を実施。



### ◆島四国

4月12日(木)・13日(金)・14日(土) 宮窓町・吉海町  
問い合わせ / 吉海町産業観光課 TEL0897-84-2111  
宮窓町産業観光課 TEL0897-86-2500  
大島全域を四国遍路にみたてた島四国八十八カ所巡りを行う。



### ◆いまばり緑化フェア

4月28日(土)・29日(祝) 市民の森・フラワーパーク  
問い合わせ / 今治市公園緑地課 TEL0898-36-1563  
植木まつりや花の苗の即売など、多彩なイベントを実施。



### ◆第6回今治タオルフェア

5月12日(土)・13日(日) テクスポート今治  
問い合わせ / 四国タオル工業組合 TEL0898-32-7000  
全国一のタオル産地・今治のタオルメーカーが行う即売会



### ◆バラ祭りよしうみ2001春

5月下旬の日曜日 吉海町バラ公園  
問い合わせ / 吉海町企画総務課 TEL0897-84-2111  
バラの最も美しい時期に実施。朝市やバラに関するイベントを盛りだくさんに実施。

### ◆2001年しまなみ海道100kmウルトラ遠足

6月3日(日) 広島県福山市～愛媛県今治市  
問い合わせ / 2001年しまなみ海道100kmウルトラ遠足実行委員会  
TEL046-255-4689  
朝5時に福山城をスタートし、今治城まで1日で100kmを走る。



### ◆大山祇神社御田植祭

6月25日(月) 大山祇神社  
問い合わせ / 大山祇神社 TEL0897-82-0032  
早乙女たちが古式にのっとり畠に苗を植える。一人角力の奉納や少年相撲大会も実施。

### ◆水軍レース大会

7月8日(日)(予定) 宮窓町能島沖  
問い合わせ / 宮窓町産業観光課 TEL0897-86-2500  
村上水軍の小早船を復元して速さを競う。水軍の昔を彷彿とさせるレース。

### ◆今治市民のまつり・おんまく

8月4日(土)・5日(日) 今治港周辺・広小路・中心商店街  
問い合わせ / 今治商工会議所内今治市民のまつり振興課 TEL0898-23-3939  
広小路を埋め尽くされる踊り隊のパレードや花火大会などで街中が賑わう。

### ◆はかた夏祭り

8月14日(火) 伯方S・Cパーク  
問い合わせ / 伯方町産業振興課 TEL0897-72-1500  
花火大会、盆踊り、夜店などで賑わう伯方町の夏祭り。

### ◆てんてこ

問い合わせ / 魚島村役場 TEL0897-78-0011  
鉦や太鼓の音にあわせて紹介した一団が海岸を練り歩く、伝行事。

### ◆大三島武者歴史祭 三島水軍鶴姫まつり

8月19日(日)(予定) 大山祇神社から宮浦港までの参道  
問い合わせ / 大三島町商工会 TEL0897-82-0795  
鶴姫をはじめ水軍たちに扮した武者の行列がメイン。華麗な時代絵巻を再現する。

### ◆今治せんいまつり2001

10月7日(日)・8日(祝) 今治地域地場産業振興センター  
問い合わせ / 今治地域地場産業振興センター TEL0898-32-3337  
デザインコンクールとタオルや特産品の展示即売。



### ◆バラ祭りよしうみ2001秋

10月下旬の日曜日 吉海町バラ公園  
問い合わせ / 吉海町企画総務課 TEL0897-84-4322  
秋のバラの開花にあわせて、各種イベントを行う。

### ◆第7回今治タオルフェア

10月～11月(予定) テクスポート今治  
問い合わせ / 四国タオル工業組合 TEL0898-32-7000  
全国一のタオル産地・今治のメーカーが行うタオルの展示即売会。



### ◆いきな島一周マラソン大会

3月第2日曜 生名島全域  
問い合わせ / いきな島一周マラソン大会実行委員会(生名村役場内)  
TEL0897-76-3000  
生名島をゆっくり楽しむマラソン大会。3km、5km、10kmのコースがある。

※平成13年2月調べ

よむ  
今治のタオル  
MATSUYAMA TOWEL



本紙に関するご意見・ご要望がおありでしたら事務局までお寄せください。

戦前から戦後昭和30年代まで東南アジア方面に多量に輸出された「梅に鶯」。  
菅原利鎌のデザインによる。



昭和26年(1951年)4月1日、同懇会にて。(前列左から3人目が羽藤武、左から4人目が菅原利鎌。)

時に産業技術として赴任した。工業講習所は染織技術者養成を目的として設立され、百九十三人のすぐれた人材を輩出した。彼らは、やがて今治をタオル王国に発展させる原動力になる。(講習所は、昭和十年、県立染織試験場に改組され新たな歩みを始めた。)

大正初期の今治タオルは、ほとんど無地か縞模様。その後、自動変換装置が登場、单调ながらタオルの意匠にいくらかの変化を与えるようになる。

菅原は従来のドビー機の改造に着手、さ

胸像の銘文は長い年月を経て判読が困難ではあったが、おおよそ「人物の育成と技術の革新によって、タオル王国の座を搖るぎなきものにした」とあつた。

戦後、官職を辞した菅原は織物工業組合専務理事、今治工業高校・職業補導所講師など歴任し、天皇陛下ご巡幸に際しては「愛媛の織維業について」ご進講の栄に恵まれた。

昭和二十八年、自ら編さんした今治タオル工業史の第一章で「国際市場における各国の競争に堪え得る力を培養することが急務であり、徹底した企業の合理化と機械の改善

らに変化のある意匠の製品を作り出した。しかし、幾何学模様しか織れない織機に技術者の血はおさまらなかつた。「もっと自由な模様を織りたい」。

当時、タオルの先進地は東京と大阪。有試織に没頭し、大正十三年、ついにオール機利用による紋タオル製織の始まりである。

菅原は明治二十四年、山形県鶴岡市で生まれた。東京高等工業学校を卒業後、福島県工業試験場、東洋紡績島田工場長を経て、大正十一年、愛媛県立工業講習所設立と同

今治市民の憩う吹揚公園には石碑、銅像が数多く建っている。辺りを睥睨するかのようない派な像から石垣をひとつ隔てて、「菅原利鎌先生の像」はひつそりと佇んでいた。先生の功績を顕彰するにはやや小柄な胸像であったが、その表情からは温厚で控えめな人柄が偲ばれる。



## 今治タオル中興の祖 「菅原利鎌先生の生涯」

今治のタオル産業が日本一の座を占めるに至った要因は①蒼社川の伏流水という良質の水に恵まれたこと。②綿織物の基礎があつたこと。③中興に人を得たこと…といわれる。

「「チミ(きみ)は、この学校をなぜ選びましたか」と少し東北訛りのある言葉できがれた。「チミ、第一ボタンがはずれているよ」緊張していた私に注意してくれた教師を、母のように優しく感じた。入学後に、この教師が菅原所長であったことを知った。」

プリントタオルの創始者・羽藤武は、県立工業講習所の入試時のことを見た。

菅原は明治二十四年、山形県鶴岡市で生まれた。東京高等工業学校を卒業後、福島県工業試験場、東洋紡績島田工場長を経て、大正十一年、愛媛県立工業講習所設立と同



昭和初期に当時の最新技術で菅原利鎌が織った皇居の絹柄の先染織物今井タオル(株)に寄贈され現在も同社で保管されている。

※羽藤武氏は、竜岡村(現玉川町竜岡)を流れる「おこの川」のせせらぎを聞きながら育った。二つのお宮の後を流れているので、御後川(おこの川)の名があるという(おこ川とも言う)。おこの川は、やがて蒼社川に合流して今治綿業界の発展を支えた。



ベニン(取材時:ダオメ)1969年1月  
道端の草むらから弓矢を手に出て来た男に矢の射方を教わる兼高。



ニュージーランド クイーンズタウン 1971年1月  
冷たい湖で泳いだ子どもたちをくるむバスタオル。

兼高かおる

## 世界の旅



ベニン(取材時:ダオメ)1969年1月  
土はこりよけに口と頭をタオルで覆いサングラスをかけた兼高。

タオルというごく身近な物に初めて目をやったのはアメリカ留学時代。まだ1ドルが公定で360円、ヤミで400円の時代であった。物が今のようにあふれる時代がくるとは夢にも思わなかつた頃である。私の住んだアメリカ人家庭は風呂場近くの棚にきれいにたたまれたタオルが何段にも重なつて積まれていた。お客様にも手洗いに新しいタオルを置くが家族も毎日とりかえるのである。日本家庭は個々のタオルはあったがバスタオルは家族皆で使つたし、タオルはお風呂で使えばそれが洗濯がわりになつたと思う。私のいたアメリカ人家庭はわんぱく盛りの少年が二人いた故もあってか、週に一度が大洗濯日で一週間分のタオルもその日に洗うのである。

日本ではタオルは無地の白が基本だったが、ロスアンジェルスである時、大きなタオルに水着姿の女性が椰子の木陰でボーズをとっている絵の描いてあるのを見ついた。ビーチ・タオルといって体をふいたり、おおつたり以外にビーチに敷いたりする遊び用のタオルだった。当時の私はきびしい財政だったが奇抜なもの、新しもの好きの兄にそれを送つた。今の日本なら生身の女性がトップレスで現れるからその際にはUVカットのビーチ・タオルか腰を巻くパレオ・タオルを、今治タオルにつくつけていただきたい。

タオルは毎日使うものである。海外旅行者にすすめて喜ばれたのは自分サイズのタオル持参である。海外のホテルのタオルは厚くて大きいので日本女性の手にあまるからだ。日本のホテルにそろえて



ブラジル アマゾン 1986年5月  
草原を歩く時、毒草に触らぬようタオルで足をプロテクトして歩く。

あるタオル・スリッパーは私の気に入りである。新品でソフトで、風呂上がりの足のぬれをふきとってくれ、しかもお持ち帰り自由なので自宅でも愛用している。

気がついてみるとタオルには一年中毎晩お世話になつた。バスタオルである。親の恩みたいなもので日常、そこにあると気がつかないものだ。夏はタオルケットという特別に掛け布団として作られたものより私はバスタオルを使用している。バスタオルなら体の上にだけかかり、軽くて体のポジションを変えて片手でカバーの処理ができる。色や模様もバラエティがあるのでひんぱんにベッド・ムードを変えられるのも楽しい。洗濯も楽だ。掛け布団を使う時期も私はバスタオルを衿もとにかける。のどや肩をカバーするのに樂に出来、ふとんの衿をとりはずさなくともタオルだけ洗濯すればよいので常に清潔で気持ちよい。タオルの基本的良さはやわらかい触感、常に清潔に出来る安心感にある。

## The Ordinary Becomes Extraordinary

by Alison P. Terry,

Japanese Liaison, Lakeland Sister Cities International

### 平凡だけどすばらしいもの

The mere memory of it is delicious. Such pleasure. Nothing that feels this good could possibly be bad. If, a small child, could have known what I am about to say, he or she would have been overjoyed.

What are we talking about here?

An oversized, freshly laundered, extra thick bath towel. It's a winter's day.

I must have been only four or five years old. I had just experienced my first "hot towel" experience. I remember my mother saying to me, "It's so warm and cozy. Come sit in the bathtub with me." I remember my feet, then my Mother saying to me, "It's so warm and cozy. Come sit in the bathtub with me."

As Mom draped a thick, freshly washed bath towel around me, I knew that this must be what heaven was like. I remember and reveled in the cuddly cocoon. Then, later, I still remember begging Mother to let me stay in the tub a few more minutes before they go to bed. Both girls love to curl up in the bathtub with their nearly

four-year-old daughters. They both love to curl up in the bathtub with their nearly

I am passing this legacy on to my own daughters. My favorite "house" garment is a very, very heavy robe made from towel material. My children's greatest thrill is for me to put them in it.

robe made from towel material. My children's greatest thrill is for me to put them in it.

minutes before they go to bed. Both girls love to curl up in the bathtub with their nearly

dryer, dash into their room and spread out in their bed.

dryer, dash into their room and spread out in their bed.

cozy heat it holds. Both my girls love to curl up in the bathtub with their nearly

My Mother passed away many years ago. I miss her. She loved to talk about the "old days" from my childhood. Her "hot towel ritual" is my way of helping my children remember her. What a lovely way to remember her.

A towel or a robe. Very ordinary. Very ordinary by themselves.

Alison Terry  
3825 Cheverley Dr. W.  
Lakeland, FL 33813

私の母は、子どもたちが生まれるずっと前に他界しました。娘たちは、私の子ども時代の昔のお話を聞くのが大好きです。私がどんな子どもだったか、私の母がどんな人だったか知りたくてまりません。そうして、早く逝つて孫に会えなかつた母のことを、彼女の孫に伝えるのに、暖かいタオルの儀式はとても役に立つていると思ひます。世代を超えて何かを受け継ぎ伝えられる、なんて素敵なことです。タオルやローブ、とてもありふれた日常のものですが、ぬくもりの感触とそれにまつわる思い出によって、この上もなくすばらしいものに感じられます。

在米国 アリソン・P・テリー



をしっかりとまきつけて、その繭の中をうつとりしことを覚えています。この恍惚感は束の間ですが、忘れられないものです。四十年後の今も、子どもの時に、あのぬくぬくとした感触がほしくて、タオルをあつたかくして、と、ママによくねだったのを思い出します。

このママの遺してくれた思い出を、私は一人の娘にも少し違う方法で与えています。私のお

気に入りの冬用一家をウロウロする"ガーメント"は、とてもとても重い(乾いた状態で二~三キロ、濡れた時には二十キロもあるでしょう)タオルでできたローブです。子どもたちは、寝る前

に、十五分間ドライヤーに入れて温めたバスマントブを、私がかけてやるのをわくわくして待っています。ベッドカバーの下で小さく縮こまっている

彼女たちに、乾燥機からラフス状のローブをとり出していく、子ども部屋に駆け込み、かけてやると、その心地よさに一人とも、ほつと身体の緊張を解き、幸せ一杯で眠りにつきます。

私は、子どもたちが生まれるずっと前に他の世界に入った。娘たちは、私の子ども時代の昔のお話を聞くのが大好きです。私がどんな子どもだったか、私の母がどんな人だったか知りたくてまりません。そうして、早く逝つて孫に会えなかつた母のことを、彼女の孫に伝えるのに、暖かいタオルの儀式はとても役に立つていると思ひます。世代を超えて何かを受け継ぎ伝えられる、なんて素敵なことです。タオルやローブ、とてもありふれた日常のものですが、ぬくもりの感触とそれにまつわる思い出によって、この上もなくすばらしいものに感じられます。



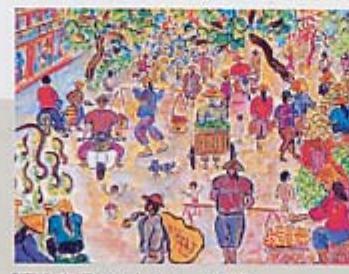
mamen

う。生をつつむ。つぶんでひろがる。  
とぐろ巻くうす潮の群れ群れ。  
放し飼いの生地球、天晴れらせんの花が舞  
う。

「田田」  
「アスアス」

うす潮が消えない。

波止浜駅から電車で今治へ。  
車窓の彼方に大島。

「花と雨」久高島・沖縄 1998  
「青空市場」ベトナム 1997

福田勝プロフィール／画家・詩人・マルチアーティスト。1949年東京生まれ。武藏野美術大学卒業後、広告のアートディレクターを経て、創作活動を開始。世界各国を旅し、存在するものすべてを画材にこだわらず描く。絵のほかエッセイや旅行記も手がける。東京・幕張の「地球大快晴」の制作、オーガニックコットン商品開発デザイン・ブランディングディレクションなど。



mamen

ま、過去の諸々はともかくとして、今治あたりをめさしたときの旅の雑記の断片です。これも過去ですがまだきたての生過去ですで悲しからず。

○月×日。瀬戸内海、薄曇れの朝は因島。すれすれ低空飛行のツバメの行き先は、軒下の巣とひなどりたち。尻尾の無い伏せ目がちな赤犬はたるそで、船着き場ちかくの植が蟲きざわぐ。

天と地の相思相愛……記憶の深底で既視感が蠢きざわぐ。  
海峡の生面を滑る船々の一見ゆるやかに見える右往左往には、幼いころ顕微鏡から覗き見た原生動物のたくましさとほんのどこかなつかしさが。  
徒歩スケッチ約2時間。

○月△日。早朝。快晴の海峡に架かる橋を今治へ向けて徒步を開始。  
今すぐわれる足裏の真下には聽こえてこない白波音とうなる潮音。橋は海上約60メートル（これも民宿のおかみから教わる）。尾鱗骨のむすがゆさとアタマは軽い一日酔い。  
忘れたころに吹いてくる微風。腋に微汗。

民宿にて魚貝づくしの夕はんは日本酒で花酔。  
とう。生をつつむ。つぶんでひろがる。

# 十日えても、うず潮

絵を描きながら旅をするようになつて随

分になります。

行く先々で留めた風景や光景、ひとびとや生きものたち、実想幻想妄想などなどはいつの間にか膨大な枚数に成長をつづけています。一方それらは一枚一枚が、描いたときの自分自身をそのまま見てとれる、いわばきもの率直な記録でもあります。

消えて無くなりたいくらい自分が腹立たしいときに捉えたインドはガンジス河畔での、老女たちの沐浴風景は眩しきほどに明るく静やかだつたり、我心身熱恋愛発展中の初夏、太平洋のとある島での連作スケッチはどれもこれが冷徹な筆致だったりと……。ときを違えて見つめていると、描いたそのときには気づいていなかつた自分のさまざまな感情が手にとるようにそこにはあつて。胸をぐんと張りたくなる一枚もありますが、強度の自己羞恥によりその絵が見えていないふりをしたくなる一枚も山ほどあります。

ま、過去の諸々はともかくとして、今治あたりをめさしたときの旅の雑記の断片です。これも過去ですがまだきたての生過去ですで悲しからず。

○月×日。瀬戸内海、薄曇れの朝は因島。陸はもうすぐそこ。そろそろはじまりそうな夕暮れは青薄紫色で、強風がときどき。暖涼情。鳥とシェット機と蝶が行く。

SKY SO EMPTY。  
眼前はるかに愛景を発見。  
瀬戸内蜃氣樓？異境のオアンス。背筋のゾワワの活性化。

クレヨン、クレパスでスケッチを開始する。

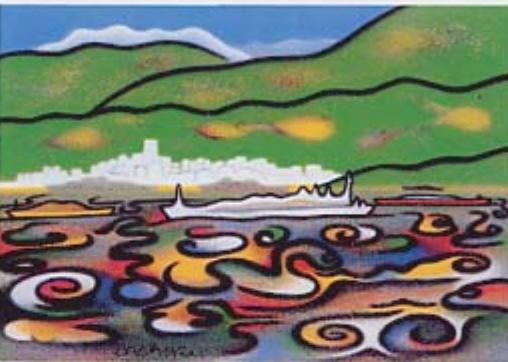
込みに咲く黄橙色の小花々には淡い陽光。

細い坂道途中の枇杷の木の向いでゆつくり

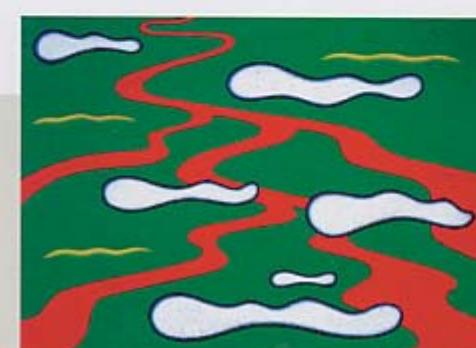
洗濯物を干す老女。二日前に千葉の成田山に

お参りして帰ってきたばかり、自分の墓は大

三島にある、と海を指しながら遠く言つ

タオルの「うず潮」  
「うず潮」  
「うず潮」

「雲」小笠原父島 2000



「メコンデルタ」ベトナム 1996



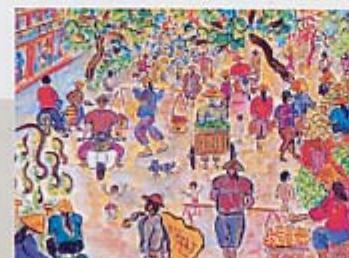
「たんぽぽ」那覇 2000



「花と雨」久高島・沖縄 1998



「たんぽぽ」那覇 2000

「花と雨」久高島・沖縄 1998  
「青空市場」ベトナム 1997

福田勝プロフィール／画家・詩人・マルチアーティスト。1949年東京生まれ。武蔵野美術大学卒業後、広告のアートディレクターを経て、創作活動を開始。世界各国を旅し、存在するものすべてを画材にこだわらず描く。絵のほかエッセイや旅行記も手がける。東京・幕張の「地球大快晴」の制作、オーガニックコットン商品開発デザイン・ブランディングディレクションなど。

# タオルでひとやすみ



植物思想を持ったタオル達



宮崎 弘  
西国タオル工業組合  
理事長

昭和20年当時、私は港近くの昭安幼稚園に通い、今治城の時報台が空襲警報を全市に鳴り響かせると、急いで石橋の下に潜り込んだ。逃げて行く人には、米軍機による上空からの無差別な機銃掃射があり多数の死者を出し、工場家屋は焼失した。「何故、自分のごとき幼児にまで銃を向けるのか。」その時以来、自分は「日本の戦争とは何だ」と考える契機になった。

昭和初期に始まった日中戦争、朝鮮、台湾等への領土拡大は、他国の土地、資源、人間、財宝の略奪の連続であり、それが日本の戦争の姿でもあった。戦争によって失われるものの中で、特に強調して語らねばならないのは、「生命」と「自然」の破壊であろう。戦場となった美しいアジアの自然風土は焼きつくされ、丸裸の荒地になってしまった。

敗戦後、きちんと人間の存在基盤である「生命」と「自然」を認識できていない日本民族は、経済復興、高度成長においても利潤の略奪者として、過剰流動資金と不動産を軸にして、実態の伴わない虚業の経済(バブル経済)をつくってきた。その結果、現在も銀行、土木、建設、不動産等の低迷は日本経済にしとしと雨を降らし、確実な21世紀が展望できない。

持続可能な経済社会を考えるとき、今までの直線的(作りっぱなし、売りっぱなし、使いっぱなし)経済社会ではなく、節約型循環経済社会(今ある有限の資源を長く使う、使用後の再利用など)へ順次替わっていき、また、デイリー・ライフ、生活様式の変化のなかで、水や空気を生み出すエネルギー源である植物が一層注目され、21世紀は植物を中心とした思考をベースにして経済社会は構築されるであろう。何故なら、水や空気を汚染しながらの経済なんてナンセンスだ。

All lifeは、plantsによって成立していることを認識し、その舞台上で人間社会のさまざまな行為(政治、経済、文化など)は、その舞台を傷つけない範囲で、取りつくさない範囲で、失われない範囲で、再利用可能の範囲で機能するべきだろう。

自然が育てた植物繊維である綿花が、紡がれ、糸になり、やがて織られてタオルになる、生活の中で繰り返し繰り返し使われるタオル、最後には美しい薄墨色に自身を染め上げていく。その純色のタオルを見た時、何か思想をもった存在感のあるものを感じられるでしょう。それは、タオルの原点が「自然の恵みの賜り物」であるから。

ちょっと、しんどい話になったんやけん、まあ一やわらかいタオルをようけさわってほっこりしてや。

プロビーチバリヤー  
(ダイキヒメツ所属)  
**佐伯美香**  
Mika Saeki



生産され、そのシェアが全国の60%を占めていること、また、百年あまりの歴史があるといふことを知り、あらためて驚いています。百年という歴史には、多くの生産者の方の汗と、私たちをさわやかで清々しい気持ちにさせてくれる温かい気持ちの結晶がつまっているのだと思います。

もう一度オリンピックに出場したいと言う気持ちから、インドア六人制バレーから転向したビーチバレーですが、日本ではまだまだ歴史も浅く、まだまだメジャースポーツには

程遠いものがあります。私はビーチバレーを始めたのも同時に地元愛媛に帰つてきました。その結果愛媛は、世界で一つしかないプロビーチバーチーム発祥の地となりました。また高校生女子のビーチバレー甲子園「マドンナカップ」が毎年開催されるようになりました。今回、シドニートーオリンピックで四位に入賞することができ、日本国民のたくさんの方にビーチバレーを知って頂けたのではないかと実感しています。これからビーチバレーがメジャースポーツの仲間入りができるよう、ま

た愛媛で、世界を目指すビーチバレー選手が次々と誕生してくるような環境を作りながら、今治タオルの百年の歴史に負けないビーチバレーの歴史をこれから一つずつ刻んでいくたいと思います。

しまなみ海道が開通して以来、今治を通る機会も多くなりました。これからは、タオル(今治タオル)を手土産にして、しまなみ海道を通って、たくさんの友人たちを私と同じさわやかな気持ちにさせてあげたいと思います。

私は多くの方々に「鉄人のような女」と思われているようです。オリンピックに七回出場をして、国會議員をしながら、結婚して、出産して育児に奮闘しております。いろいろな記録の前に、「女性初」などとかかれることも多いためか、私のことを筋肉隆々のすごい女性かと思うようです。実際にあつてみると「意外に細い」「華奢」などと言われることもあります。

スポーツは三歳の時にスケートを始めたのが最初です。スポーツにタオルは欠かせません。その頃から私はタオルとつきあつていています。練習での汗を拭いたタオル、悔しい涙を拭いたタオル、大事なスケート靴をぐるんだタオル、思い出をたくさん吸い取ってくれました。自転車でオリンピックに出た時は、

暑い夏でした。観客の方も汗だくで応援して下さいました。平成七年に国會議員となって五年が過ぎました。その間にもオリンピックにてたり、結婚、出産と思い出がたくさんあります。平成十二年の七月からは北海道開拓総括政務次官に就任して、本当に良い経験をさせていただきました。北海道生まれの私にとって地元ではありますが、有珠山噴火の直後でもあります。ベリコフターで視察をしたりもしました。今は育児に欠かせないタオルです。子どもをくるんだり、敷いたり、拭いたり、たくさんタオルのお世話をなっております。移動が多い私の生活中で、子どもを連れて出張に行くことも多い生活をしています。大きなバッグの中にタオルを入れて、温度調節をしておむつを換えたり、タオルのない生活は考えられません。子どもにとってタオルのぬくもり、肌触りが大好きのようです。様々なシーツで活躍するタオルは、万能の選手です。これからも、タオルのお世話をなり続けることと思います。

タオルという存在は、ビーチバレーの試合で水着を着たり、サングラスを掛けたりするのと同じくらい、私にとってなくてはならないものです。

バレーボール競技をしている時だけでなく、日常生活の中でも、顔を洗う時、お風呂に入る時、料理をする時、夏場は寝る間もお世話になります。一日のうち何度も手にして、私の気持ちをさわやかにしてくれます。

私は小学六年生からバレーボールを始めて、もう

十数年経ちますが、誕生日やクリスマスには友達やファンの方からプレゼントが送られます。プレゼントの中にはブランド物などもありますが、スポーツをしている私にとって、日常利用するタオルが、どんな高価なものよりもあります。プロビーチバレー選手が、どんな高価なものが、ありがたく思います。ファンの方の温かい気持ちを思い出したり、励まされたりしながら、気持ちを新たにする事ができます。そんな私にとって、日常欠かすことのできないタオルが、私の地元である愛媛の今治で



参議院議員  
**橋本聖子**  
Seiko Hashimoto



波止浜港船のりば

今治市の最北端、波止浜港から渡海船に乗つた。  
穢やかな入江を出ると、潮の流れが一変する。

ここは来島海峡、鳴門につぐ渦潮と急流で名高い。  
この景観に惹かれて吉屋信子、大仏次郎、井上靖ら  
著名な作家が逗留した。高浜虚子も、  
姪の今井つる女が住む波止浜に再び訪れた。

これが実現した。橋桁まで六十メートル、  
主塔の高さは百八十メートル。  
橋を見上げながら、毎日千隻を超える船舶が行き来する。

タオルの  
ふるさと紀行

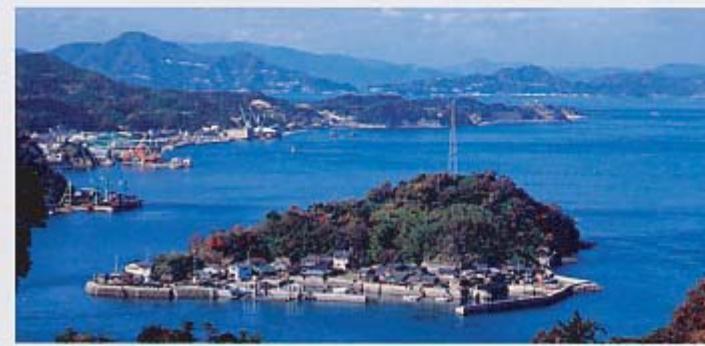
# 「来島海峡の歴史を訪ねて」

## 来島

海峡の中に島が三つある。五分ほどで来島に着いた。周囲わずか八百五十メートルの小さな島だが、戦国時代に武勇を馳せた来島村上水軍の本拠地である。かつては本丸、二の丸、三の丸を構える海城であった。石垣の一部や車船を繋いだ柱穴の跡が名残りをとどめている。村上水軍は能島、因島(広島県)、来島に分れ瀬戸内の制海権を手中に收めた。三島村上水軍である。

一五五五年、中國筋の霸權を争う畿島合戦で活躍した村上水軍は、毛利氏との交わりを強めていく。毛利・村上水軍は「木津川口の海戦」で織田信長軍を破る武勲をあげるが、三家はやがて分裂し、没落の道をたどる。

唯一、来島村上氏のみが久留島と姓を変え、大名として大分県の山間部を生き残った。



来島

## 小島

おしま 島 日露戦争当時の砲台跡が残る

来島から小島に向かう。おりからの潮流がぶつかる島の先端は、まるで大型船の舳先のように波を蹴立てている。

ここ小島も歴史上貴重な遺蹟がある。明治三十一年、日露開戦は避けられない情勢になり、軍部はロシア艦隊の来襲に備えて砲台の建設に取りかかった。芸予海域では三原水道に面した大久野島と来島海峡の小島。

小島の砲台は三カ所。まず中央砲台跡に登つてみた。途中の遊歩道はよく整備されて、昭和五十一年に今治市が植えた一千五百本の椿がトンネルをなしている。紅椿の咲き誇る春は、大勢の観光客が訪れるそうだ。

十五分ばかり歩いて、中央砲台跡に着いた。堅固な石垣に守られた円形の砲座跡、ここには二十八センチ榴弾砲が六門配備されていた。砲弾は一発の重さが二百十八キロもあったという。このうち榴弾砲はとりはずされ、一〇三高地、旅順港攻撃のため海を渡る。

さらに急な階段を登ると海拔百メートルの山

頂にた。司令塔跡である。ここから三百六十度どちらを見ても海と島、素晴らしい眺めだ。

眼下の島々は指揮の間にあり、狙い撃ちされる艦船はたまつたものではない。幸い砲台が火を噴くことはなく、日露戦争は終結した。

赤レンガ作りの愛媛県最古の火力発電所や地下兵舎跡は昔の姿を留めていた。山腹を削つて建造された弾薬庫の屋根は落ちて無かつたが、分厚い壁面は百年の歳月を経たとは思えない。当時の技術で、これほどの要塞を作り上げた工ナルギーに驚くほかない。

島の北側にキャンプ場がある。平成五年、子どもたちの健やかな環境づくりを目指す「風の顔らんど」全国第一号に選ばれ、整備された。

活動の中心は、今治市内の小・中学生で組織された「ジニア・ボランティア・アドベンチャー・フレンドクラブ」。海岸の漂流物調査や星空の観測結果など、環境庁のECHOクラブを通じて全国に

## 馬島

うましま 島

渡海船が最後に寄港するのは馬島。周囲四十口で、来島海峡大橋の架かる島である。

以前、この島の民宿に来たことがある。俎板にタコが二匹乗っていた。他の料理は忘れてしまったが、愛敬たっぷりの趣向に思わず噴き出した記憶がある。

料理にもまじて忘れられないのは、茜色に染まる来島海峡とタロ口だった。



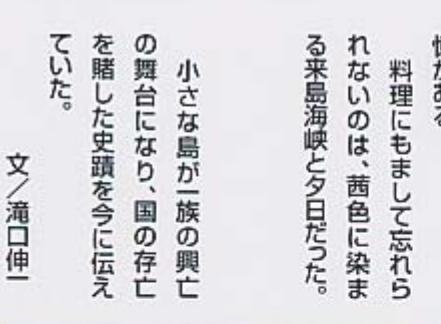
愛媛県最古の火力発電所跡



地下兵舎跡



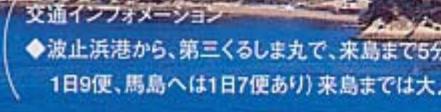
中央砲台跡



風の顔らんど



タロ口



交通インフォメーション

◆波止浜港から、第三くるしま丸で、来島まで5分、小島まで10分、馬島まで20分。(来島・小島へは1日9便、馬島へは1日7便あり) 来島までは大人片道120円、小島までは170円、馬島まで230円。